

農事組合法人 おぶくろ営農（中津市三光小袋）

【経営の概要】

経営形態	生産組織（農事組合法人）
モデルの種類	平地モデル
設立時期	（総会）平成20年4月27日，（登記）平成20年5月21日
構成戸数	49戸
労働力	基幹20名，補助31名

【経営規模（ha）】

	経営面積	水 稻	麦 類	
			小 麦	大 豆
平成19年	41	—	39	15
平成20年	45	28	42	16
平成21年	45	28	42	16

【機械装備】

コンバイン（自脱6条，汎用）	2台	畝上管理機	1台
トラクター（55PS, 36PS, 22PS）	3台	フォークリフト	1台
田植機（8条，6条）	2台	ディスクハロー	1台
乗用管理機	1台	ドライブハロー	1台
麦播種機	1台	弾丸暗渠機	1台
大豆播種機	1台	中耕ロータリー	1台
溝上げ機	1台		

【経営の特徴】

平成9年に営農組織を設立して、農作業受託、機械の共同利用を行ってきた。平成20年には法人化し、集落の水田の90%を利用権設定した。集落ぐるみで取り組むことにより、効率的な土地利用や品質・収量の向上、コスト低減等の課題を解決し、栽培技術の向上と経営の安定が図られた。また、導入した技術を地域へ波及させ、地域農業の発展に寄与している。

【導入した新技術】

◎不耕起栽培技術（浅耕一工程播種），大豆

（手 法）麦収穫後、一回の耕起（浅耕）で、播種・施肥・溝上げを同時に行った。

（結 果）播種適期に一回の作業だけで、播種・施肥・溝上げが効率的に行えることから、コスト低減が図られた。

◎高度施肥管理技術（土壌診断に基づく緩効性肥料による省力型追肥），麦

（手 法）分けつ肥施用前に土壌診断を行い、緩効性肥料を施用した。

（結 果）穂肥・実肥の施用を行わないことから、省力化によるコスト低減が図られた。

◎汎用収穫技術（汎用コンバインによる収穫），麦・大豆

（手 法）汎用コンバインにより、麦類・大豆の収穫を行った。

（結 果）複数の作物を収穫するため、コンバインの稼働率が向上し、コスト低減が図られた。

（留意点）更なるコスト低減のため、水稻収穫による稼働率の向上を図る必要がある。



<小麦の収穫>



<大豆の収穫>

◎耕起・施肥・播種同時作業技術

（簡易培土板による播種同時溝上げ栽培），麦類・大豆

（手 法）簡易培土板により、播種同時溝上げ栽培を行った。

（結 果）播種後にかなりの降雨があっても、溝上げ栽培では出芽が順調であった。



<麦の施肥・播種同時溝上げ>

◎多目的管理作業技術（乗用管理機等使用）

水稻・麦類・大豆

（手 法）乗用管理機により、麦類・大豆の施肥・防除を行った。

（結 果）適期に的確な作業が効率的に行えるため、コスト低減が図られた。

（留意点）今後、水稻で施肥・防除を行う必要がある。



<麦の除草剤散布>

◎その他特徴的な取組

- ・不作付地の解消のため、マコモダケを栽培している（H21：25a）。
- ・消費者、実需者との交流を行っている。

◎主な波及活動

- ・中津市三光の麦作農家を集めての麦栽培研修会で成果発表並びの技術の展示を行い、技術の普及を図った。
- ・中津市の水稻・麦・大豆作農家を集めての研修会で成果発表を行い、技術の普及を図った。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間(県平均比)	全算入生産費(県平均比)	所得
経営全体	7.0hr (37%)	77,528円 (88%)	34,284円
水 稻	11.0hr (35%)	114,292円 (77%)	
麦	5.1hr (55%)	62,142円 (111%)	
大 豆	4.9hr (30%)	56,151円 (95%)	

